

# 日本火山学会における (主に火山防災委員会の) 火山防災に関する取り組み

令和4年11月10日

火山防災協議会等連絡・連携会議



火山防災委員会

火山学会としての火山防災への取り組みを強化するため、臨時委員会として2004年から活動してきた火山防災委員会を2013年に常設化。

設置目的：

- ①火山災害の予防・軽減に関わる基本的な問題点を評価し、その解決に適切な背策・方法について検討した上で、その推進を社会に向けて提言する。
- ②官民を問わず火山防災に関する助言、啓発活動のための情報発信を進める。

主な活動：

- ① シンポジウムの開催
- ② 啓発用資料の作成
- ③ 地域安全学会との連携によるオンライン勉強会
- ④ 内閣府「火山防災協議会等連絡・連携会議」への参加
- ⑤ その他

学会の役員改選に伴い2022年7月より下の新体制で活動しています。

委員会担当理事兼委員長 石峯康浩（富士山科学研究所）

委員

上澤真平	（電力中央研究所）
江川香	（アジア航測）
及川輝樹	（産業技術総合研究所）
熊谷英憲	（海洋研究開発機構）
久利美和	（気象庁）
佐藤公	（磐梯山噴火記念館）
宝田晋治	（産業技術総合研究所）
千葉達朗	（アジア航測）
新堀賢志	（火山防災推進機構）
三輪学央	（防災科学技術研究所）

（五十音順）

## シンポジウムの開催（その1）

春季（地球惑星科学連合大会の日程に合わせて開催）

2022年度開催概要：

【テーマ】海での噴火と火山防災について考える

【日時】 2022年5月30日（月）13:30～15:00（1時間30分）

【場所】 オンライン開催（Zoom）

【講演者】①国立科学博物館 谷健一郎氏

「日本における海底火山研究の現状と課題：  
福徳岡ノ場2021年8月噴火の調査を例として」

②鹿児島県与論町総務課 町本和義氏

「2021年福徳岡の場噴火による漂流軽石災害の状況」

## シンポジウムの開催（その2）

秋季（原則、火山学会秋季大会の日程に合わせて開催）

2022年度開催概要：

【テーマ】最新科学がさぐる富士山の  
火山学と防災

【日時】2022年11月6日（日）  
13:00～16:30（3時間30分）

【場所】三島市民生涯学習センター  
&オンライン開催

【講演者】

①富士山科学研究所 藤井敏嗣氏

②日本大学 鷺川元雄氏

③静岡大学 石橋秀巳氏



日本火山学会 一般公開シンポジウム  
最新科学がさぐる  
**富士山の火山学と防災**

主催：日本火山学会、共催(予定)：三島市、後援：静岡県、美しい伊豆創造センター、伊豆半島ジオガイド協会

📅 2022年 11月6日（日） 🕒 13:00～16:30  
📍 三島市民生涯学習センター

富士山の最新の研究成果、最近改定されたハザードマップ、改定中の避難計画について解説するとともにパネル討論を通じて研究者・行政・一般市民の間の相互理解を深め、富士山噴火への備えの方策を語る

プログラム

- あいさつ：市川 勇（三島市副市長）
- 趣旨説明：小山 貞人（静岡大学教授）
- 改定された富士山のハザードマップ  
：藤井敏嗣（東京大学名誉教授、山梨県富士山科学研究所所長）
- 富士山の噴火予知最新情報：鷺川元雄（日本大学特任教授）
- 富士山のマグマ研究最新情報：石橋秀巳（静岡大学准教授）
- パネル討論：どうなる？住民と登山者の避難計画  
：登壇者全員＋石田孝仁（静岡大学特任教授、元静岡県危機管理課）
- コーディネーター：中川和之（時事通信社解説委員）

参加費無料・会場定員80名（希望者にネット中継あり）  
以下のリンクまたは右のQRコードから要申し込み  
応募×切：10月30日（日）  
申込先：<https://forms.gle/22joWPSv5RN6K3udA>

## 啓発資料の作成（その1）

御嶽山の2014年噴火災害を受け、活火山にハイキングなどに行く際の注意点をまとめたパンフレット2種を作成(2015年)



安全に火山を楽しむために



一般向け



子供向け

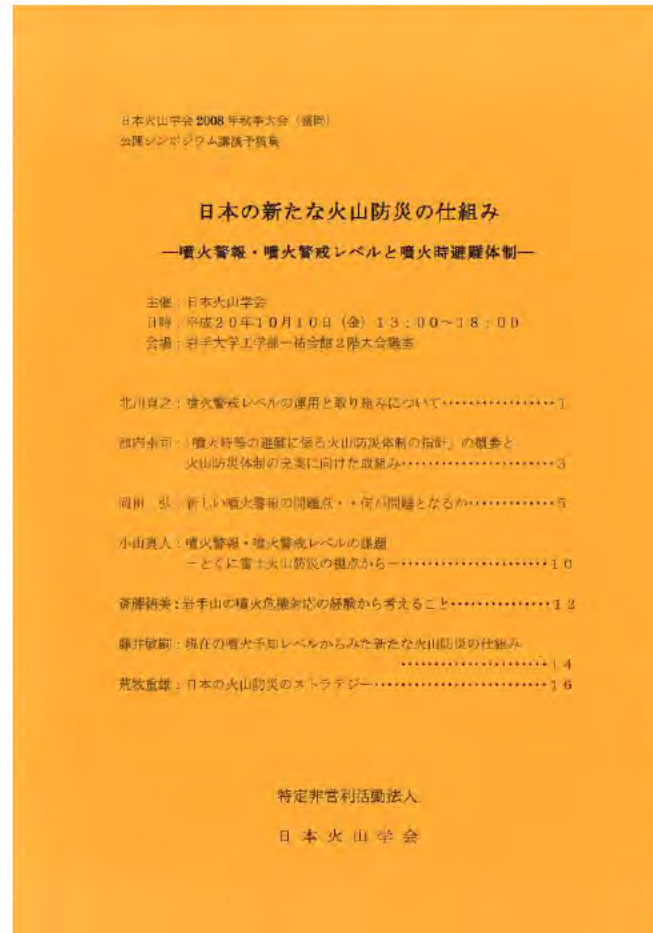
詳細はこちら↓



学会HPの  
紹介サイト

## 啓発資料の作成（その2）

### 学会HPでの防災シンポジウム等の資料の紹介



詳細はこちら↓



親子実験サイト



公開シンポサイト

←本年7月の桜島の警戒レベル引き上げを受けデータを発掘。間もなく公開予定。

本年10月の親子実験テキスト

2008年の公開シンポジウムの予稿集

## 啓発資料の作成（その3）

### 火山防災に関連する英文資料の翻訳版も近日、公開予定です。



国際火山学会による指針（1999年） 国連による防災テキスト（1985年）  
 著作権に関する調整が必要になると思われるため、具体的な公開日時は未定です。  
 内部資料として利用するのは問題ないと思いますので、ご希望の方は私までご連絡ください：



## 原本は国際連合 (United Nations) による “Volcanic Emergency Management (1985)”

1977年の国際会議 (IAVCEI@英国ダラム) での「近年の火山災害対応の経験をとりとまとめるべき」との提言を受けて開催されたUNESCOの専門家会議の成果報告書として出版されたもの。火山災害の特徴やリスク評価、対策、対応計画ならびに関係者の連携についての要点が簡潔にまとめられていて、火山防災に関する多くの著作物の“ネタ元”となっている。



### 4章 防災対策

..... (途中省略)

#### 4.1 降灰に対する対策

..... (途中省略)

屋根が平らで大きな荷重に耐えられる建物では、小型のショベルカーで屋根の火山灰を除去することもできる。この場合、ショベルカーはクレーンで屋根まで吊り上げるか、ヘリコプターで着陸させられることが条件となる。

..... (途中省略)

目の不自由な人々にとって、電線が非常に危険なものであることにも留意する必要がある。特に、火山灰が厚く積もることで、“地面”から電線までの高さが低くなっている場合は事故が起きやすい。

### 5.8 輸送手段、交通規制

すでに指摘したように、危険区域からの人々のその資産の移動に関する計画は、段階的対応と即時避難の2つの緊急度を想定して策定すべきである。段階的避難では、行政が出す避難命令から激しい噴火の開始までに十分な時間があれば、自家用車やボートを所有する家庭では自力で避難すると想定してよい。

..... (途中省略)

激しい火山活動が予想外に急速に進展した場合、(目の前にある使えるトラックやバスに人々が殺到するため) 交通の統制はますます困難になる。また、都市部からの避難では、多数の人々が徒歩で移動するために、車両での移動が不可能になる可能性がある。この場合、事前の計画は中止し、“突撃計画”に切り替えるしかない。すなわち、危険区域に引き返した車両が臨時の参集場所や折り返し地点で(できれば警察や防災担当者が統制を図りながら) 徒歩で避難する人々を手当たり次第、乗車させるのである。

## 地域安全学会との連携によるオンライン勉強会



### お知らせ

**イベント** 8/7オンライン火山防災勉強会(第2回)「ハザードマップの利活用と住民の避難—雲仙普賢岳噴火の事例より」

投稿日：2022年7月22日

#### オンライン火山防災勉強会（第2回）

「ハザードマップの利活用と住民の避難—雲仙普賢岳噴火の事例より」  
地域安全学会実務者企画委員会では、日本火山学会防災委員会と連携し、「防災実務」×「火山科学」の観点から、実践的な火山防災を考える勉強会をオンラインで行っています。今回は、1991年の雲仙普賢岳噴火対応をめぐる課題について、当時は島原市の職員として災害対応に携わった雲仙岳災害記念館館長の杉本伸一さんを講師にお招きし「ハザードマップの利活用と住民避難」をテーマに、住民避難の観点から話題提供をいただきます。

日時：2022年8月7日（日） 10:00～12:00

場所：オンライン開催（Zoom）

#### プログラム

10:00～10:05

ご挨拶 地域安全学会実務者企画委員会副委員長 秦康範（山梨大学）

10:05～11:05

ハザードマップの利活用と住民の避難—雲仙普賢岳噴火の事例より—  
杉本伸一 雲仙岳記念館館長

11:05～11:55

質疑応答・全体討論

進行：秦康範・石峯康浩・南沢修（長野県）

11:55～12:00

クロージング

日本火山学会防災委員会委員長 石峯康浩（山梨県富士山科学研究所）

（司会）地域安全学会実務者企画委員会 阪本真由美（兵庫県立大学）

**本年度中に第3回勉強会も開催  
予定です（現在、日程調整中）  
決定し次第、地域安全学会のHP  
でお知らせします。**

- ◆ 火山学会火山防災委員会で取り組むべき活動等についてご助言、意見等がございましたら、ぜひ、お声かけください。口頭でもメールでも、構いません。
- ◆ 特に、シンポジウムや勉強会で取り上げてほしいテーマがあれば、ぜひお知らせください。
- ◆ 協議会での取り組みについても、ご質問等ございましたら、ぜひ、ご相談ください。可能な限り、対応させていただきます。

## シンポジウムの後援

12月16日（金）、17日（土）に日本火山学会等が後援する御嶽山のシンポジウムが開催されます（主催は名古屋大学等が組織する実行委員会）。

御嶽山、箱根、草津白根山という観光地で最近、発生した水蒸気噴火を題材に活火山と共生する地域づくりに関して意見交換を行うとのことです。

オンラインでの視聴も可能らしいので、ご興味のある方は下のQRコードよりお申込みください。



御嶽山・箱根山・草津白根山 — 水蒸気噴火および防災と観光 —

御嶽山（2014）、箱根山（2015）、草津白根山（2018）で発生した水蒸気噴火を振り返り、火山防災への取組と課題を住民と行政、研究者が共有し、活火山と共生する地域づくりを推進することを目的としたシンポジウムを開催します。

**入場無料** 会場定員100名（希望者にネット中継あり）  
以下のリンクまたは右のQRコードから申し込みください。  
申込締切 12月12日  
申込先: <https://forms.office.com/r/8xycPeLzvc>  
※事前申し込みなく当日会場参加も可能ですが、定員を超えた場合はお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

**開催日時**  
1日目 2022年 12月16日 13:00~18:00  
水蒸気噴火に関する学術シンポジウム  
プログラム（タイトルは変更されています） 水蒸気噴火の理解—現状と課題—

〔水蒸気噴火の論点（趣旨）〕 山岡 裕香（名古屋大学）  
〔箱根山の噴火〕 高年 一則（神奈川県立環境学研究所）  
〔草津白根山の噴火〕 寺田 祐彦（東京工業大学）  
〔御嶽山の噴火〕 及川 輝樹（産業技術総合研究所）  
〔御嶽山の火山活動〕 前田 裕太（名古屋大学）  
〔御嶽山の電磁気調査〕 市原 寛（名古屋大学）  
〔御嶽山の火山監視能力の向上〕 豊野 智之（気象庁）  
※総合討論 司会：橋本武志（北海道大学）

2日目 2022年 12月17日 9:20~15:30  
活火山の防災と観光に関するシンポジウム  
プログラム（タイトルは変更されています） 噴火災害への備え—防災と観光—

■ 趣旨説明 / 兵藤 裕一（御嶽山火山防災協議会）  
■ 総論の読 / 原 久仁男（木曾町長）  
■ 御嶽山とはどのような山なのか 9:30~  
〔御嶽山の魅力と課題〕 丸山 文広（一社） 木曾町長（観光局）  
〔御嶽山火山マスターの活動、登山者の意識調査〕 小林 善樹（御嶽山火山マスター）  
■ 御嶽山の登山者に対する安全対策の新たな取組 10:15~  
〔登山者避難訓練 / ビーコンによる監視調査〕 宮城 洋介（防災科学技術研究所）  
〔登山者避難訓練 / アンケートによる行動調査〕 金 幸隆（名古屋大学）  
〔登山防災教育 / タイムライン授業〕 野田 智彦（木曾町）

■ 箱根山の防災と観光の取組 11:25~  
〔観光地における火山監視と防災〕 高年 一則（神奈川県立環境学研究所）  
〔箱根山火山活動における観光産業と火山防災〕 田村 洋一（庄町観光課）  
〔箱根山の取り組む観光地の防災—令和元年の火山対応より—〕 朝島 信洋（箱根町）

■ 草津白根山の防災と観光の取組 13:10~  
〔火山災害の観点から考える草津白根山〕 寺田 祐彦（東京工業大学）  
〔草津白根山の観光行政と火山防災〕 黒岩 信忠（草津町長）

■ 総論講演 14:05~  
〔噴火による社会経済的影響とリスコミュニケーション〕 藤原 勉（山梨大学）  
※総合討論 14:50~15:30

**開催場所** 木曾町文化交流センター 多目的ホール  
長野県木曾町木曾町福島 5129

主 催：御嶽山、箱根山、草津白根山—水蒸気噴火および防災と観光—シンポジウム実行委員会（名古屋大学産業環境学研究所御嶽山火山防災センター、東京工業大学草津白根山防災センター、長野県木曾町、長野県木曾町、長野県三井村、長野県山梨県御嶽山火山防災協議会（長野県））  
後 援：長野県、長野県上信州、日本火山学会、地産火山噴火学研究所協議会、防災科学技術研究所、神奈川県立環境学研究所、御嶽山火山マスターネットワーク  
お問い合わせ 長野県木曾町地域振興局 観光管理・課長課  
TEL 0264-25-2213 FAX 0264-23-2593  
名古屋大学御嶽山火山防災センター  
TEL 0264-24-0131 FAX 0264-24-0132

